

資料編

京都三大学 教養教育共同化による 「新しい時代の要請に応じた教養教育」の実践

背景

地球環境の危機や一地域の変化が全世界の人々に影響を与えるほどのグローバル化の進展により、社会全体の枠組みが大きくかつ急激に変化している。

加えて、東日本大震災は多くの尊い命を奪い、生活や産業に深刻な打撃を与えるとともに、それに併発した原子力発電所の事故は暮らしとエネルギーの問題を投げかけるなど、国民全体が幸福感や社会関係のあり方を深く問い直す状況が広がっている。

また一方、被災地では、住民同士の助け合いや国内外からのボランティアによる救援・復興活動が展開されており、「人を思いやる心」や「人と人との絆の大切さ」が再認識されている。

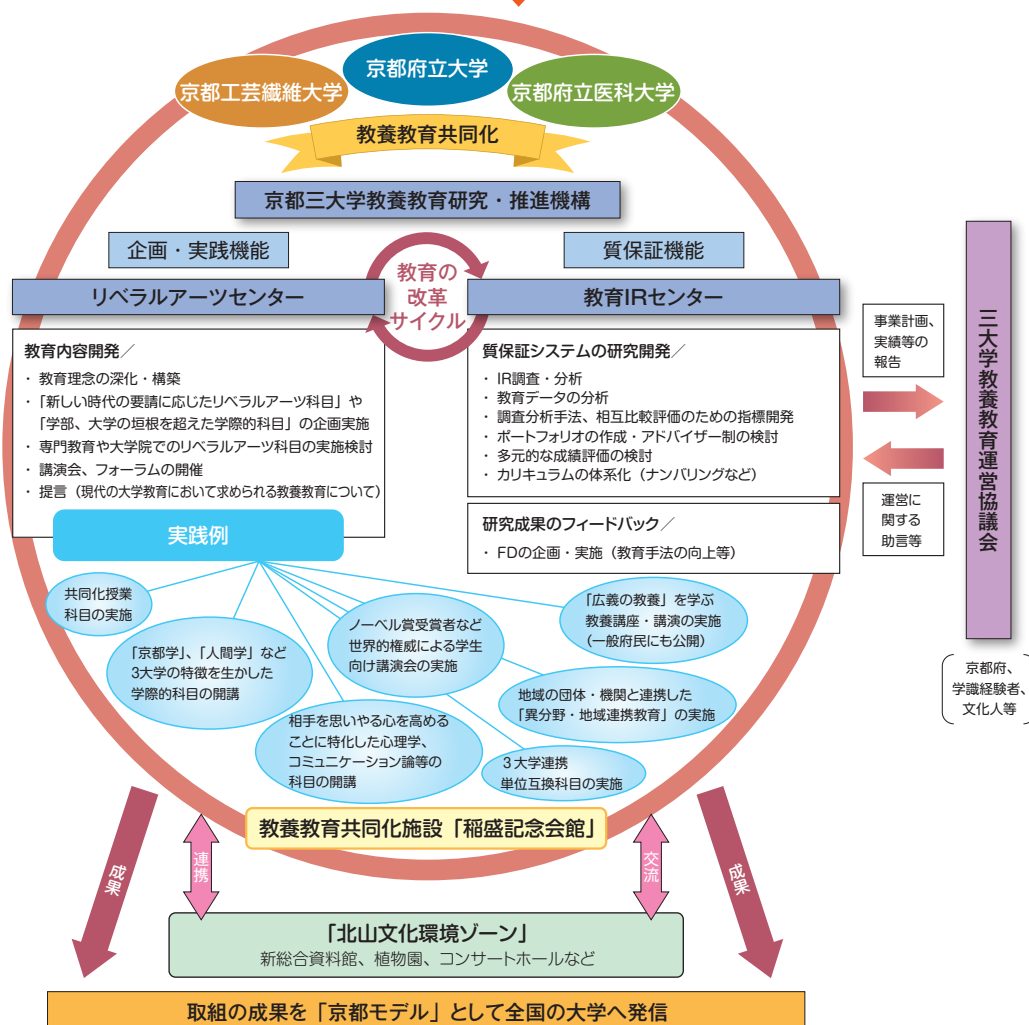
取組コンセプト

国公立三大学の教養教育カリキュラムを「共同化」し、それぞれの大学の特徴・強みを生かした質の高い、「新しい時代の要請に応じた教養教育」を実施する。

人材養成の目標

次の①～③を備えた人材を養成する。

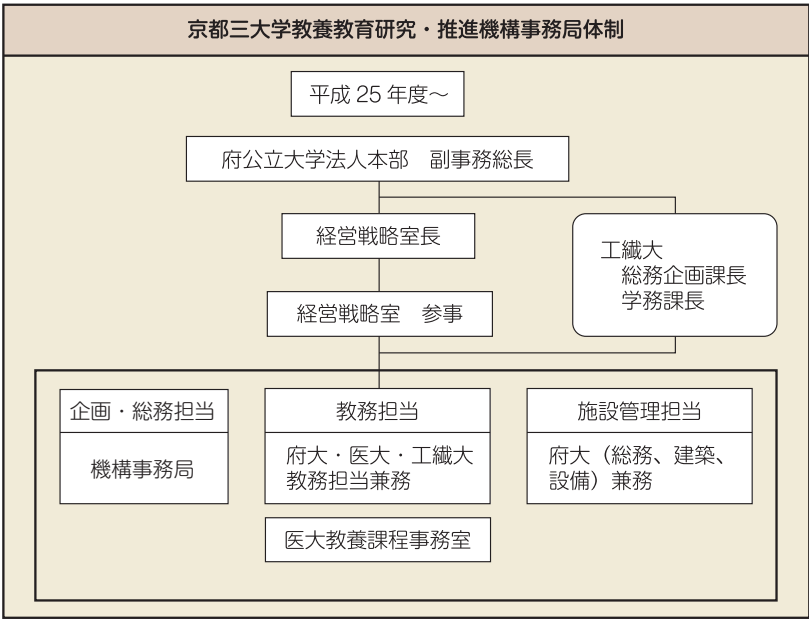
- ①異なる価値観や視点を持つ他者と協働する力としてのコミュニケーション能力及び相手を思いやる心
- ②自ら問題を発見し、それにコミットするとともに、「正解」の存在しない問題についても、学際的な視点に立ち、多様な見解を持つ他者との対話を通して自身の考えを深め、解決に向かって行動する能力
- ③グローバルな局面で、文化や言語を異にする他者と交流し協働する能力



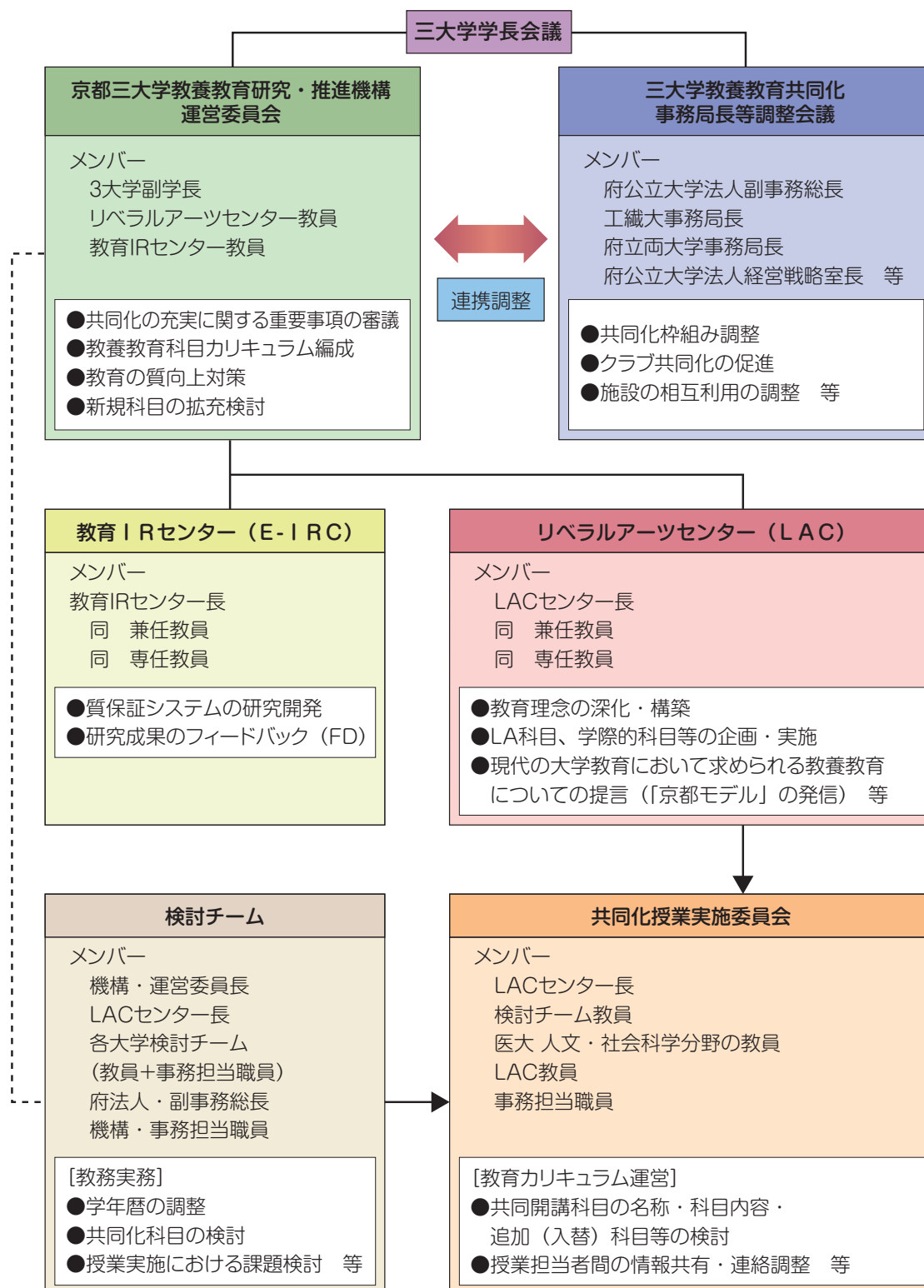
平成 27 年度三大学教養教育研究・推進機構 運営委員会 委員名簿

平成 28 年 1 月

大学名	三大学教養教育研究・推進機構 運営委員会							
	担当副学長		リベラルアーツセンター		教育 I R センター		規約第 4 条第 2 項による者	
	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
京都工芸 繊維大学	理事・ 副学長	大谷 芳夫	基盤科学系 教授	人見 光太郎	センター長 基盤科学系 教授	大倉 弘之		
京都府立 医科大学	副学長	渡邊 能行	応用言語学 教授 教養教育部長	木塚 雅貴	物理学教授	上原 正三	学生部長	北脇 城
京都府立大学	委員長 副学長 (教務部長)	小沢 修司	センター長 生命環境学部 生命分子化学科 教授	石田 昭人	文学部 歴史学科 教授	菱田 哲郎		
京都三大学 教養教育研究 ・推進機構			特任教授 林 哲介				京都府 公立大学法人 副事務総長	高石 佳文
			特任教授 脇田 哲志					
			特任准教授	藤井 陽奈子	特任准教授	児玉 英明		

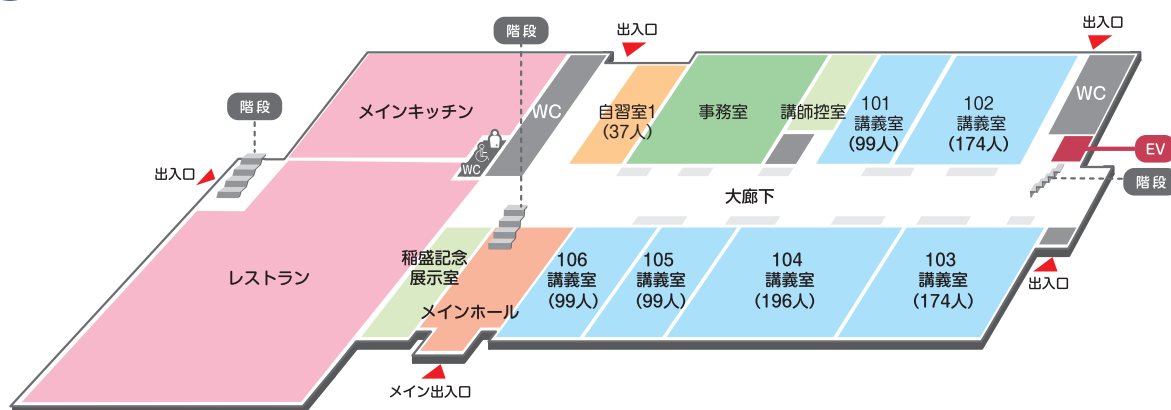


三大学教養教育共同化推進体制



教養教育共同化施設「稲盛記念会館」

1階 府民利用・学生交流フロア



稲盛記念展示室



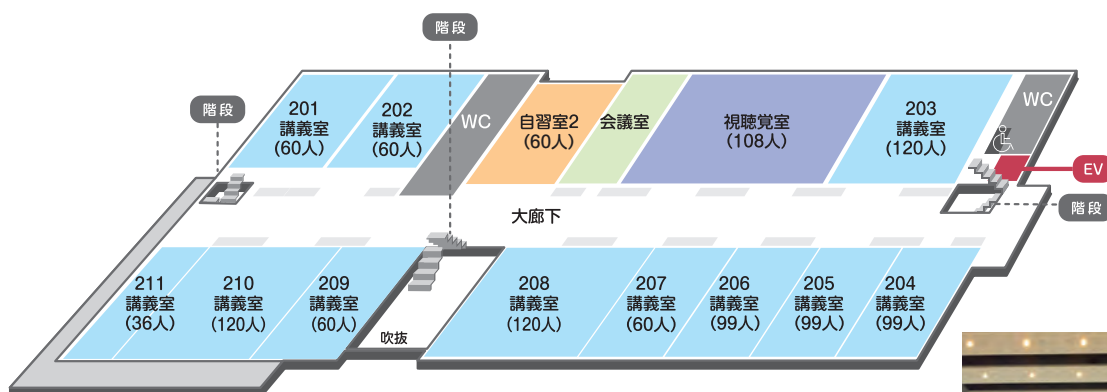
レストラン



104 講義室 (196人)

- ▶ 講義室6室
 - ・ 196人: 1室
 - ・ 174人: 2室
 - ・ 99人: 3室
- ▶ 自習室(37人)
- ▶ 稲盛記念展示室
- ▶ レストラン
- ▶ 事務室

2階 学生講義室フロア



- ▶ 講義室11室
 - ・ 120人: 3室
 - ・ 99人: 3室
 - ・ 60人: 4室
 - ・ 36人: 1室
- ▶ 自習室(60人)
- ▶ 視聴覚室



207 講義室 (60人)

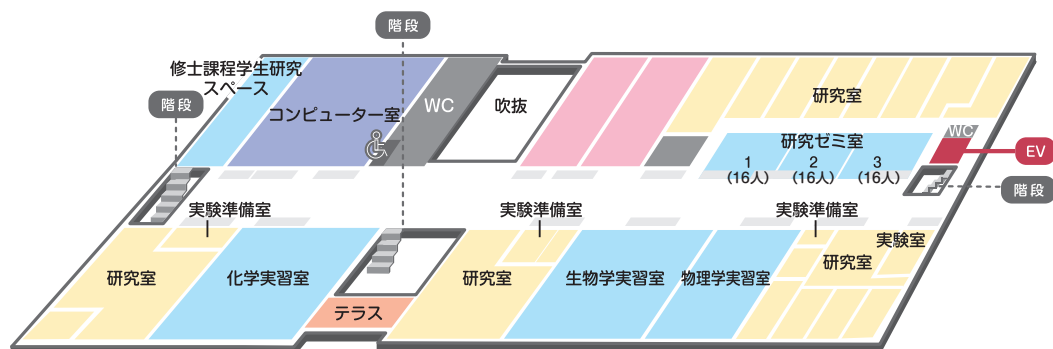


視聴覚室



自習室2

3階 研究等フロア



コンピューター室



研究ゼミ室 1



生物学実習室

- ▶ 京都府立医科大学
- ・ 研究室
 - ・ 化学実習室
 - ・ 生物学実習室
 - ・ 物理学実習室
 - ・ 実験準備室
 - ・ コンピューター室
- ▶ 研究ゼミ室
(16人：3室)



会議の審議状況、視察・学会参加状況

□ 運営委員会 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項
平成 27 年 5 月 18 日 (月) 午前 9 時～午前 10 時 25 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2 階 会議室	【新任者紹介等】 1 平成 27 年度リベラルアーツセンター長の紹介 2 新運営委員の紹介 【協議・報告等】 1 共同化授業について 2 文部科学省中間評価に係る面接評価の状況について 3 平成 27 年度事業予算について 4 平成 27 年度教養教育共同化に係る具体的取組について 5 両センターの活動について ・リベラルアーツセンター ・教育 IR センター 6 次回以降の運営委員会の日程調整
平成 27 年 6 月 23 日 (火) 午前 10 時 30 分～午前 11 時 40 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2 階 会議室	【協議・報告等】 1 共同化科目前期試験教室配当について 2 平成 28 年度学年暦について 3 教育 IR センターからの報告 4 リベラルアーツセンターからの報告 5 交付申請に係る対応について 6 平成 27 年度フォーラムについて
平成 27 年 7 月 28 日 (火) 午前 10 時 30 分～午前 11 時 40 分	京都府立大学 本館 2 階 第 1 会議室	【協議・報告等】 1 平成 28 年度学年暦について 2 大学間連携共同教育推進事業中間評価結果について 3 リベラルアーツセンターからの報告 4 教育 IR センターからの報告 5 府民公開講座（案）について 6 第一四半期の予算執行状況について 7 その他 ・運営協議会の開催について ・稲盛記念会館 3 階研究ゼミ室の使用について
平成 27 年 9 月 29 日 (火) 午前 10 時 30 分～午前 11 時 40 分	京都府立大学 本館 2 階 第 1 会議室	【協議・報告等】 1 リベラルアーツセンターからの報告 2 教育 IR センターからの報告 3 事業内容等変更承認申請及び同変更交付決定について 4 文部科学省からの照会について 5 平成 26 年度 1 年次生アンケート自由記述欄に対する回答の公表について 6 近畿地区大学教育研究会第 84 回研究協議会でのパネル討論について 7 稲盛記念会館の共同化講義室等の使用について
平成 27 年 10 月 27 日 (火) 午前 10 時 30 分～午前 11 時 50 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」 2 階 会議室	【協議・報告等】 1 平成 27 年度後期共同化科目履修状況（暫定版）について 2 リベラルアーツセンターからの報告 3 教育 IR センターからの報告 4 府民公開講座について 5 本年度上半期の予算執行状況について

開催日時	開催場所	審議事項
平成 27 年 11 月 24 日（火） 午前 10 時 30 分～午前 11 時 15 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2 階 会議室	【協議・報告等】 1 三大学教養教育運営協議会の結果について 2 リベラルアーツセンターからの報告 3 教育 IR センターからの報告 4 平成 28 年度共同化科目についての報告 5 府民公開講座について
平成 27 年 12 月 22 日（火） 午前 10 時 30 分～午前 11 時 55 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2 階 会議室	【協議・報告等】 1 平成 28 年度共同化科目について 2 平成 27 年度後期試験教室配当について 3 平成 28 年度大学間連携共同教育推進事業予算について 4 各センターからの報告 5 平成 27 年度活動報告書の作成について 6 第四回三大学教養教育運営協議会について 7 府民公開講座について
平成 28 年 1 月 26 日（火） 午前 10 時 30 分～午前 11 時 45 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2 階 会議室	【協議・報告等】 1 平成 28 年度共同化科目について 2 平成 28 年度「受講案内」の作成について 3 各センターからの報告 4 実績報告書に対する文部科学省からの確認及び回答について 5 本年度の補助金予算の執行状況及び見通しについて 6 平成 28 年度共同化科目に係る大学間のデータ送付期限について
平成 28 年 2 月 23 日（火） 午前 10 時 30 分～午前 11 時 20 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2 階 会議室	【協議・報告等】 1 平成 28 年度大学改革推進事業補助金（大学改革推進事業）調書について 2 平成 28 年度 3 大学連携教養教育共同化事業単位互換履修ガイドについて 3 「共同化科目担当教員の授業実施に当たっての留意事項」の作成について 4 各センターからの報告 5 本年度の補助金予算の執行状況及び見通しについて 6 その他
平成 28 年 3 月 22 日（火） 午前 10 時 30 分～午前 12 時 00 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2 階 会議室	【協議・報告等（予定）】 1 平成 28 年度大学改革推進事業補助金（大学改革推進事業）調書の提出について 2 各センターからの報告 3 本年度の文部科学省事業予算の執行状況について 4 その他

□ リベラルアーツセンター会議 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項
平成 27 年 7 月 14 日 (火) 午後 4 時 10 分～午後 5 時 50 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」3 階 研究ゼミ室 2	【協議・報告等】 1 学生主体のシンポジウムの企画について 2 「宿泊型研修」の設計と予算申請について 3 「非営利組織論」におけるオフキャンパス・プログラム（案） 4 自主ゼミの設計と実施について 5 平成 27 年度公開講座について
平成 27 年 10 月 23 日 (金) 午前 9 時 00 分～午前 10 時 35 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2 階 会議室	【協議・報告等】 1 来年度の共同化科目等について ・教室の配当について ・単位互換について ・スペイン語について 2 学生主体のシンポジウムの準備状況について 3 27 年度公開講座の準備状況について 4 未着手懸案事項の確認について
平成 28 年 2 月 5 日 (金) 午後 2 時 30 分～午後 3 時 30 分	稲盛記念会館 3 階 研究ゼミ室 2	【協議・報告等】 1 「宿泊型研修」について

□ 教育 IR センター会議 審議状況

日時	場所	審議事項
平成 27 年 5 月 18 日 (月) 午前 10 時 30 分～午前 11 時 30 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2 階 会議室	1 1 年次生アンケートについて 2 授業アンケートについて 3 担当教員アンケートについて 4 担当教員会議について 5 その他
平成 27 年 6 月 23 日 (火) 午前 11 時 35 分～12 時 00 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2 階 会議室	1 担当教員会議について
平成 27 年 11 月 24 日 (月) ～11 月 28 日 (金)	メール会議	1 教養教育質保証フォーラムについて 2 今後の教育 IR センターの課題について
平成 27 年 12 月 22 日 (火) 午前 11 時 50 分～午後 12 時 20 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2 階 会議室	1 教養教育質保証フォーラムについて 2 今年度の機構の報告書について 3 アンケートについて
平成 28 年 1 月 20 日 (水) 午後 4 時 10 分～午後 6 時 00 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」2 階 会議室	1 年度報告書と今後の課題について 2 各種アンケート等について 3 履修制限について 4 教養教育質保証フォーラムについて 5 その他

□ 共同化科目担当者会議 審議状況

開催日時	開催場所	審議事項等
平成 27 年 8 月 5 日 (水) 午後 3 時～午後 5 時 30 分	教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」 106 講義室	1 各種アンケートの結果等についての報告 2 意見交換

□ 視察先及び学会参加一覧

日付	視察・学会先	視察・参加者	備考（報告内容等）
5/26	日本学術振興会 「科学上のブレークスルーに関するグローバルシンポジウム」 (ホテルオークラ東京 別館 アスコットホール II)	藤井陽奈子	
6/3	大阪大学コミュニケーションデザインセンター 10 周年記念ラウンドテーブル 「越境する力（教養）－これからの大学における高度教養教育の可能性と課題」 (大阪大学)	藤井陽奈子	
6/6 ～ 6/7	大学教育学会 「大学教育学会 第 37 回全国大会」 (長崎大学)	林哲介 児玉英明	6月6日 「ラウンドテーブル 教養教育の本流Ⅱ」 企画者：児玉英明 コメンテータ：林哲介「今、教養教育が果たすべきこと」 ラウンドテーブルの詳細は、阿部勘一・長尾佳代子・林哲介・児玉英明「教養教育の本流Ⅱ」『大学教育学会誌』第 37 巻第 2 号、2015 年、83 – 90 頁を参照。 6月7日 児玉報告： 「教養教育の原理像と学習成果の把握－吉野源三郎・丸山眞男の教養教育論の検討を中心にして－」 (部会「学士課程教育 2」)
6/27 ～ 6/28	日本高等教育学会 「日本高等教育学会 第 18 回大会」 (早稲田大学)	児玉英明	児玉報告： 「京都三大学教養教育研究・推進機構における大学間連携特有の質保証と評価観点－設置形態を超えた教養教育共同化の取組を事例として－」 (部会「大学評価」)
7/11 ～ 7/12	第 2 回京都大学 - 稲盛財団合同京都賞シンポジウム (京都大学)	藤井陽奈子	
7/30	名桜大学リベラルアーツ機構 「第 1 回 リベラルアーツ機構 FD 研修会」 (名桜大学)	児玉英明	児玉報告： 「大学における成績評価の多元化と授業改善」
8/28 ～ 8/30	日本教育学会 「日本教育学会 第 74 回大会」 (お茶の水女子大学)	藤井陽奈子	
8/28 ～ 8/30	日本教育学会 「日本教育学会 第 74 回大会」 (お茶の水女子大学)	児玉英明	児玉報告： 「吉野源三郎『君たちはどう生きるか』に見る教養教育の原理像 ー偏狭な国粋主義への対抗とヒューマニズムの精神ー」 (部会「教育理論・思想・哲学 (a)」)

日付	視察・学会先	視察・参加者	備考（報告内容等）
8/29	近畿地区大学教育研究会 「第 84 回研究協議会」 (京都外国語大学)	小沢修司 林哲介 大倉弘之	大倉報告： 「京都三大学教養教育研究・推進機構の取り組みについて」 (シンポジウム:大学教育をめぐる「連携」の展開)
9/8～9/10	日本教育社会学会 「日本教育社会学会 第 67 回大会」 (駒沢大学)	藤井陽奈子	
10/25	第 3 回教育学関連諸学会共同シンポジウム (慶應義塾大学)	藤井陽奈子	
12/25	産学協同就業力育成シンポジウム 2015 「まなぶとはたらくをつなぐ課外授業ー大学の学びは社会で生きる」 (明治大学)	藤井陽奈子	
11/27	公立大学協会 「公立大学創生フォーラム」 (I-Site なんば)	築山崇	築山報告： 「京都三大学教養教育共同化の取組について」
1/9	平成 27 年度 京都府立桂高等学校 SSH（スーパーサイエンスハイスクール）生徒研究成果発表会 (龍谷大学)	藤井陽奈子	
1/23	成城大学共通教育センター 2015 年度公開 FD ワークショップ「表現教育の可能性ー日本語教育の現場からー」 (成城大学)	児玉英明	
3/5～3/6	大学コンソーシアム京都 「第 21 回 FD フォーラム 大学教育を再考するーイマドキから見えるカタチー」 (京都外国語大学)	林哲介 大倉弘之 脇田哲志 児玉英明	脇田報告： 「『伝えること』と『伝わること』の違い ～『もっと知りたい』と思ってもらうためには……」（分科会 3「学ぶきっかけをつかめない学生にどう向き合うかー教養教育の挑戦ー）」 児玉報告： 「第 21 回 FD フォーラム企画検討委員会」副委員長、分科会 3「学ぶきっかけをつかめない学生にどう向き合うかー教養教育の挑戦ー」のコーディネータを担当。
3/9	教養教育高度化機構シンポジウム 「教養教育とアクティブラーニング」 (東京大学)	藤井陽奈子	
3/18	京都大学高等教育研究開発推進センター 「第 22 回大学教育研究フォーラム」 (京都大学)	林哲介 児玉英明	林報告・児玉報告： 参加者企画セッション「日本における教養教育の史的展開ー大綱化に関するオーラルヒストリー（京都大学を中心に）ー」において、林・児玉がコメンテータを担当

平成 27 年度京都三大学教養教育共同化科目受講案内(抜粋)

平成27年度
京 都 三 大 学
教養教育共同化科目
受 講 案 内



京都三大学
教養教育研究・推進機構
Institute of Liberal Arts and Sciences



京都工芸繊維大学



京都府立大学



京都府立医科大学

学生みなさんへ

京都三大学教養教育研究・推進機構

はじめに

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の京都三大学は平成26年度より、それぞれの教育理念を基本にしながら京都北山地域の特性を生かして共同することによって、飛躍的に充実した教養教育プログラムを実施することにしました。これは、これまで10年来、3大学が連携して教育や研究を充実・強化するために進めてきた検討を踏まえ、京都府と文部科学省の支援を得て実現することになったものです。

共同化する教養（リベラル・アーツ）教育では、科目群を拡充して選択の幅を広げ、学生みなさんの多様な関心・学修要求に応えるように工夫しています。学生みなさんには、様々な角度から総合的に物事を観察的に確に判断できる力や人としての豊かな感性を培うよう求めます。また、共同化によって専門や将来の志望の異なる学生同士や教員との交流を図ることができる条件を勉学や学生生活に活かし、下鴨・北山地域における新しい学生のライフスタイル、大学像が構築されることを期待しています。

I. 目指すもの

我が国の大学における教養教育は、戦後新制大学の発足以来一貫して、専門教育と並ぶ不可欠のものとして位置づけられてきました。しかしその在り方、システムや評価は時代によって変化し、社会からの要請や学生の受け止め方によって、ときには充実が求められ、また一方では形骸化を指摘されることもありました。現在の私たちは、経済のグローバル化による産業の空洞化、経済・社会の不透明・不安定化、少子高齢化、災害の巨大化、将来のエネルギー問題など様々な課題に直面し、ときには閉塞感を抱くこともあります。このような今の時代に、社会からは、眼前の利害や身の周りの空気のみで判断・行動するのではなく、主体的に考え行動し、多様な人々と連携・協同する豊かな感受性と高い倫理観を身につけることが求められています。私たちがとりくむ教養教育は、学生の皆さんが、高度な専門知識だけではなく学術の幅広い基礎的素養と科学的に思考する力を修得し、それらを基礎にして、文化や立場を異にする様々な人々と対話し議論する力や、書き、表現する力を育むことを目指します。

このような認識を踏まえ、京都三大学の共同化教養教育においては、第一に、時代が求める教養教育の課題を以下の3点に整理し、各授業科目に反映させます。

A. 人文・社会・自然諸分野の学術体系を俯瞰しながらこれらの基礎を幅広く学習し、学術への高い関心を育てること。

現代社会を生きていく市民として、諸科学の基礎的知識を幅広く修得することが求められる。大学受験に偏重した教育等の影響による修得知識の偏りを改善することも望まれる。しかし、限られた時間で修得できる知識は多くない。諸学問体系のそれぞれがもつ特有の視点に接することによって、関心・好奇心を醸成する。

B. 世界の人々の多様な生き方を感じ、人としての豊かな感性や倫理観を拡張すること。

世界の多様な地域における人々の生活、歴史の様々な時代における人々の経験や思想など、社会における人の生き方、感じ方に触れ、それらを自己に投影することによって自らの生き方を思考し省察しながら、豊かな人間性と倫理観を培う。歴史、社会、文化、芸術等を通して、人としての価値を考察し形成する。

C. 日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探究する議論に習熟すること。

日々生起する諸問題の多くは、必ずしも解が単一ではない。立場、経験、志向などの異なる多様な者が解を求め、何が正しく何が真実か、何を目指すべきかなどを議論し解決に向かう試みを通して、読み書き等のスキルを研鑽しながら、批判的検討や討論を遂行する力を養い、人とのかかわるコミュニケーション力の向上を図る。

第二として、このような基本的な目的に加えて、京都三大学としての特徴を活かした教育を実現します。

1. 共同化科目の各教室では、将来の専門分野が異なる京都三大学の学生が混在して受講することによって、学修歴や志向の違いを越えた多面的な視点による学修や討論を実現します。また、上記課題Cに狙いをおい た少人数の「リベラルアーツ・ゼミナール」を設けます。
2. 伝統文化、芸術、街づくり、市民生活、地場産業やさらに自然環境など、京都に歴史的に生きている諸財産やその現代における展開をとりあげ、京都という地の特色を諸側面から学びます。そして、この地域のなりわいの理解を通して、これからの地域・街・生活・文化のあるべき姿を検討します。

II. 実施の方針

京都三大学の共同化教養教育を運営していく組織として「京都三大学教養教育研究・推進機構」が設置されています。本機構のもとで、3大学それぞれから共同化に相応しい授業科目が提供され、また機構独自で工夫された特色ある科目が提供されます。これらの科目はすべて3大学の正規の授業科目として学生の自主的な選択に供されます。

提供される授業科目は、それぞれ上記の目的に沿って、**A. 幅広い基礎的知識の修得**、**B. 多様な人間世界の事象に触れ人々の生き方を感じ思考する**、**C. 真理と正義に係る多面的な議論や論考に習熟する**、の3つの性格があり、各授業が主としてどの性格をもつものかを示して、学生のみなさんの履修に供されます。みなさんには人文・社会・自然の3分野と共に、これらの性格で分けられた科目をバランスよく履修することが望まれます。そこではまた、これまでの学修歴による修得知識の偏りや狭さを改善することも期待されます。

教養教育のカリキュラム、授業のテーマ、内容や方法は固定的なものではなく、学修状況や授業の成果、みなさんからの要望等によって、常に改善・開発を図っていくものです。このため「機構」には「リベラルアーツセンター」と「教育IRセンター」の二つのセンターを設置し、カリキュラム等の改善・開発や学修の質評価等に係る調査・検討に取り組みます。これらの検討は、専ら教員の側のみで行うものではなく、みなさんの積極的な参加・協力が望まれます。学生のみなさんと教職員の協働によって、新しい豊かな学修フィールドの形成を図っていきます。

3 大学の学長から学生みなさんへ

21世紀の知識基盤社会が求める人材

京都工芸繊維大学 学長 古山 正雄

平成26年度に完成した教養教育共同化施設「稲盛記念会館」において、京都にある文系・理工学系・医学系の異なる個性の3大学の学生が、同じ授業を受講できるようになりました。この国立大学と公立大学が協働してカリキュラムの多様性と柔軟性を広げる試みは全国的にも初めてのもので、我が国はもとより世界に貢献しうる、まさに21世紀の知識基盤社会が求める人材を育成できるものと確信しています。

現代社会は、大量消費社会がもたらした資源の枯渇、地球的規模の環境悪化、経済社会のグローバル化と不均等発展など深刻な諸問題に直面しています。一方、日本国内においても急速に進む少子高齢化、格差の拡大などを背景として、私たちは様々な社会問題を抱えています。

このような状況下において大学は、すべての学生に自らが専攻する専門分野とは別に人文・社会・自然にわたる幅広く普遍的な知を学習させ、倫理観や歴史観、国際的な視野を持たせる責務があります。

このことから本学では、人間形成に必要な教養を涵養し、科学技術と人間性との調和・融合を図ることができる広い視野と感性を備えた高度専門技術者を育成するための教育を実施してきました。今後も地域コミュニティの中核的存在として、様々な課題を解決することができる人材を輩出することが求められており、それに応える教育を実施していきます。

何よりも人間であること

京都府立大学 学長 築山 崇

多くのみなさんが今、早く専門分野の世界に触れたいという思いの中にいるのではないのでしょうか。将来の進路も見据えて、専門的な志向をしっかりと持つことは、必要なことであり、大切なことです。

しかし、大学は、専門教育の場にとどまりません。日本の近代化にも大きな影響を与えた、イギリスの哲学者ジョン・スチュアート・ミルは、「人間は、弁護士、医師、商人、製造業者である以前に、何よりも人間なのです」と述べて、「専門分野の技術的知識に光を当て正しい方向に導く一般教養（general culture）」の重要性を強調しています。

一方「21世紀に期待される教養」は、「現代世界が経験している諸変化の特性を理解し、突きつけられている問題や課題について考え探究し、それらの問題や課題の解明・解決に取り組んでいくことのできる知性・智慧・実践的能力」であると言われています（日本学術会議の提言 2010年）。しかし、そこでも「人間であること」が根本において問われていることに、変わりはありません。

3大学の共同化で実現した、科目と学び方の多様性を活かして、互いの人間性を磨き、21世紀の展望をきり拓く確かな力を培っていきましょう。

人間性豊かな医療人になるために

京都府立医科大学 学長 吉川 敏一

教養教育は、人類が築き上げてきた知の体系を学ぶと同時に自己を確立する課程です。このような大きな目標は大学の教養教育の期間だけで達成できるものではなく、一生の全期間を通じて努力すべきものであり、今後の人生の基盤になるものです。

医学、看護学は純然たる自然科学のみではなく、人文科学、社会科学の要素を多分に含んでおり、不斷の努力により幅広く深い教養を身につけるということは、患者さんの悩みや痛みがわかる人間性豊かな医療人となるためにとても大切なことです。

平成26年度から京都三大学教養教育共同化が本格的にスタートしたことにより、受講科目の選択肢が増加しましたので、学生みなさんの多様な関心と教育要望に一層応えられるようになったと思います。

豊富なカリキュラムの中から基盤的な学力をバランスよく身に付けていただくことはもちろんですが、3大学の学生が同じ場所・同じ時間に講義を受け、異なる専攻分野の学生との交流を深めることや、開かれたキャンパスにおいて多くの府民とふれあうことなどを通じて、他者を理解するコミュニケーション能力などもしっかりと身に付けて、それぞれの専門分野に向かって大きく羽ばたいていただきたいと考えています。

共同化科目の履修について

共同化科目とは

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の各大学が教養科目を相互に提供し、提供されたすべての科目を各大学が自大学の科目としている科目群です。

1 単 位

共同化科目は、各大学の正規科目であり、修得した場合の単位は、各大学の規定に則り付与されます。

2 授業日

下表のとおり、原則として**月曜日午後**に開講されます。月曜日が休祭日に伴う他の曜日への振替もありますので、注意してください。前後期とも最終週が試験日になります。

前 期	平成27年	後 期	9月：28日
	4月：13日、20日、27日 5月：11日、18日、25日 6月：1日、8日、15日、22日、29日 7月：6日、13日、 21日（火） 、27日 8月：3日（試験日）		10月：5日、 15日（木） 、19日、26日 11月：2日、9日、16日、30日 12月：7日、14日、21日
			平成28年
			1月：18日、25日 2月：1日、8日（試験日）

3 授業時間

月曜日午後の3つの時限（コース）に行われます。（各授業科目の開講時限（コース）は、巻末の時間割を参照のこと。）

時 限（コース）	3	4	5
時 間	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40

4 開講場所について

共同化科目は、原則として府立大学下鴨キャンパス敷地内の**教養教育共同化施設「稲盛記念会館」**にて開講されます。

5 履修の手続き

4～5頁の「平成27年度 授業科目の履修定員」などを参照の上、各大学において必要な履修登録の手続きを行ってください。

6 試 験

定期試験は、上記2に掲げた「試験日」に、それぞれ授業の時間割どおり実施します。試験に関して必要なことは、試験の前に別途お知らせします。

7 休講基準

共同化科目の授業について、暴風警報等が発令された場合など次のいずれかの一に該当する場合は授業を休講とします。

- ①京都市又は京都市を含む地域に気象等に関する特別警報又は暴風警報が発令された場合
- ②京都市営バス及び地下鉄が全面停止の場合
- ③JR西日本(京都駅発着の在来線)、阪急電鉄(梅田－河原町間)、京阪電鉄(淀屋橋又は中之島－出町柳間)及び近鉄(西大寺－京都間)の4交通機関のうち3以上の運行が停止の場合

警報の解除又は交通機関の運行再開（以下「解除等」という。）に伴う授業の取扱いは次のとおりです。

- ①午前6時30分までに解除等となった場合…平常どおり授業を実施
- ②午前10時30分までに解除等となった場合…午後の授業を実施

休講及び授業実施のお知らせは、各大学からそれぞれの連絡方法によりお知らせします。

上記の基準は、共同化科目に適用されるものであり、各大学で開講される授業の休講基準は、大学ごとに異なる点がありますので、各大学の基準に従ってください。

平成27年度 共同化科目一覧

科目群		科目名	担当教員	開講期	授業目的の区分		
					A	B	C
人間と文化 (22科目)	人間と歴史	哲学	工・伊藤	後	○	○	
		比較宗教学	工・若見	前	○	○	
		宗教と文化	医・田中	後	○	○	
		日本史	工・鬼頭	前	○	○	
		東西文化交流史	工・オガタリ	後	○	○	○
	文化・芸術	アジアの歴史と文化	府・向井	前	○	○	
		ラテン語	医・松本	後	○	○	
		西洋文化論	工・山下太	後	○	○	○
		日本文学Ⅰ	医・早川	前	○	○	
		日本文学Ⅱ	医・早川	後	○	○	
		日本近現代文学	工・高木	前	○	○	
		西洋文学論	工・山下大	前	○	○	
		文芸創作論	医・藤田	後	○	○	
	京都学	美と芸術	工・三木順	前	○	○	
		京都の歴史Ⅰ	府・榎木ほか	前	○	○	
		京都の歴史Ⅱ	府・小林ほか	後	○	○	
		京都の文学Ⅰ	府・藤原	前	○	○	
		京都の文学Ⅱ	府・藤原	後	○	○	
		京の意匠	工・並木	後	○	○	○
	リベラルアーツ・ゼミナール	英語で京都(※3回生以上)	機構・金澤	後	○	○	
		リベラルアーツ・ゼミナールⅥ(現代イスラーム世界の文化と社会)	機構・田村	集中冬	○	○	
		リベラルアーツ・ゼミナールⅦ(感性の実践哲学)	機構・桑子	集中夏	○	○	
人間と社会 (28科目)	社会科学の基礎	人文地理学Ⅰ	医・阿部	前	○	○	
		人文地理学Ⅱ	医・阿部	後	○	○	
		社会学Ⅰ	府・玉井	前	○	○	○
		社会学Ⅱ	府・玉井	後	○	○	○
		政治学	工・竹本	後	○	○	○
	人間と社会	国際政治	府・依田	後	○	○	○
		経済学入門	工・人見	後	○	○	
		文化社会学	工・工藤	後	○	○	○
		現代政治	府・依田	前	○	○	○
		現代日本と経済	府・熊澤	前	○	○	○
		生活と経済	府・小沢	後	○	○	○
		公共哲学	工・小久見	前	○	○	○
		心理学	工・大谷	前	○	○	
		発達心理学	医・小川	集中夏	○	○	
		京都学	現代社会と心	府・石田	後	○	○
	現代社会とジェンダー		府・小沢ほか	前	○	○	○
	人権教育		工・杉本	後	○	○	○
	現代教育論		工・堀屋	前	○	○	○
	京都学事始—近代京都と三大学—		機構・宗田ほか	前	○	○	○
	京の産業技術史		工・山田	前	○	○	
	現代京都論		府・宗田	前	○	○	
	リベラルアーツ・ゼミナール	医史学	医・八木	前	○	○	
リベラルアーツ・ゼミナールⅠ(感覚で探る問題解決の方法)		機構・藤井	前・後	○	○		
リベラルアーツ・ゼミナールⅡ(現代社会に学ぶ問う力・書く力)		機構・児玉	前	○	○	○	
リベラルアーツ・ゼミナールⅢ(社会科学の学び方)		機構・児玉	後	○	○		
リベラルアーツ・ゼミナールⅣ(現代社会と映画製作)		機構・長坂	集中夏	○	○		
リベラルアーツ・ゼミナールⅤ(アメリカと中国はいま)		機構・脇田	集中冬	○	○		
リベラルアーツ・ゼミナールⅨ(経営哲学)(※2回生以上)		機構・児玉	後	○	○		
人間と自然 (24科目)	自然科学の基礎	物理学Ⅰ	府・春山	前	○	○	
		エネルギー科学	工・林	前	○	○	○
		化学概論Ⅰ	工・三木定	前	○	○	
		化学概論Ⅱ	工・石川	後	○	○	
		生物学概論Ⅰ	工・遠藤	前	○	○	
	リベラルアーツ・ゼミナール	生物学概論Ⅱ	工・遠藤	後	○	○	
		生命科学講話	府・塚本ほか	集中夏	○	○	
		地球の科学	工・酒井	前	○	○	○
		宇宙と地球の科学	府・松村	後	○	○	
人間と自然 (24科目)	人間と自然・科学	人と自然と数学α	工・大倉	前	○	○	
		人と自然と数学β	工・塚本	後	○	○	
		人と自然と物理学	工・萩原・播磨	後	○	○	
		生物学的人間学	医・小野ほか	前	○	○	
		人類生態学	府・熊倉	後	○	○	
	京都学	意外と知らない植物の世界	機構・藤井ほか	後	○	○	○
		科学史	工・笠木	後	○	○	
		科学と思想	工・林	後	○	○	○
		環境問題と持続可能な社会	工・高月	前	○	○	
		食と健康の科学	府・東ほか	前	○	○	
リベラルアーツ・ゼミナール	キャンパスヘルス概論	工・荒井	前	○	○		
	時間生物学特論(※3回生以上(修士課程大学院生を含む。))	医・八木田	集中夏	○	○		
	京都の自然と森林	府・池田ほか	前	○	○		
	京都の農林業	府・宮崎ほか	後	○	○		
	リベラルアーツ・ゼミナールⅧ(製品の機能から科学を学ぶ)	機構・石田	後	○	○		
合計74科目							
人間と自然 (24科目)	(再掲)	リベラルアーツ・ゼミナールⅠ(感覚で探る問題解決の方法)	機構・藤井	前・後	○	○	
		リベラルアーツ・ゼミナールⅡ(現代社会に学ぶ問う力・書く力)	機構・児玉	前	○	○	○
		リベラルアーツ・ゼミナールⅢ(社会科学の学び方)	機構・児玉	後	○	○	
		リベラルアーツ・ゼミナールⅣ(製品の機能から科学を学ぶ)	機構・石田	後	○	○	
		リベラルアーツ・ゼミナールⅤ(経営哲学)(※2回生以上)	機構・児玉	後	○	○	
	リベラルアーツ・ゼミナール(9科目)	リベラルアーツ・ゼミナールⅥ(現代社会と映画製作)	機構・長坂	集中夏	○	○	
		リベラルアーツ・ゼミナールⅦ(アメリカと中国はいま)	機構・脇田	集中冬	○	○	
		リベラルアーツ・ゼミナールⅧ(現代イスラーム世界の文化と社会)	機構・田村	集中冬	○	○	
		リベラルアーツ・ゼミナールⅨ(感性の実践哲学)	機構・桑子	集中夏	○	○	
人間と自然 (24科目)	京都学(12科目)	京都の歴史Ⅰ	府・榎木ほか	前	○	○	
		京都の歴史Ⅱ	府・小林ほか	後	○	○	
		京都の文学Ⅰ	府・藤原	前	○	○	
		京都の文学Ⅱ	府・藤原	後	○	○	
		京の意匠	工・並木	後	○	○	○
	(再掲)	京都学事始—近代京都と三大学—	機構・宗田ほか	前	○	○	
		京の産業技術史	工・山田	前	○	○	
		現代京都論	府・宗田	前	○	○	
		医史学	医・八木	前	○	○	
		京都の自然と森林	府・池田ほか	前	○	○	
リベラルアーツ・ゼミナール	京都の農林業	府・宮崎ほか	後	○	○		
	英語で京都(※3回生以上)	機構・金澤	後	○	○		
	2回生以上向け開講(3科目)	機構・児玉	後	○	○		
	リベラルアーツ・ゼミナールⅩ(経営哲学)(※2回生以上)	機構・児玉	後	○	○		
	時間生物学特論(※3回生以上(修士課程大学院生を含む。))	医・八木田	集中夏	○	○		
担当教員(それぞれの略称は、科目の提供大学・機関を示します。) 工：工芸繊維大学、府：府立大学、医：府立医科大学、機構：京都三大学教養教育研究・推進機構 授業目的区分(○は該当するもの、◎は特に強調するもの) A：人文・社会・自然の諸分野の学術体系を俯瞰しながらこれらの基礎を幅広く学習し、学術への高い関心を育てる。 B：世界の人の多様な生き方を感じ、人としての豊かな感性や倫理観を拡張する。 C：日々社会に生じる種々の問題において、真理や正義を探究する議論に習熟する。							

平成27年度 授業科目の履修定員

共同化科目について、下表のとおり科目ごとに科目定員が定められ、各大学の定員枠も設定されています。

履修登録は、各所属大学の日程にしたがって、各所属大学で行います。希望者が多く各大学の定員枠を超える場合には、大学ごとに抽選を行い、履修者を決定します。抽選の結果、履修できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

なお、皆さんの履修希望がより多く実現できるよう、履修登録の状況を踏まえ、各大学の定員枠を調整したり、科目定員を変更したりする場合があります。

履修登録の際には、前後に履修する授業に支障が出ないよう、また、安全に移動できるよう、共同化施設までの交通手段や所属大学からの所要時間を十分考慮するようにしてください。

前期 授業科目の履修定員

科 目 名	担当教員	科目定員	うち工織大	うち府大	うち医大
比較宗教学	工・若見	174	87	58	29
日本史	工・鬼頭	99	50	33	16
アジアの歴史と文化	府・向井	120	45	60	15
日本文学Ⅰ	医・早川	99	29	20	50
日本近現代文学	工・高木	99	50	33	16
西洋文学論	工・山下大	99	50	33	16
美と芸術	工・三木順	174	87	58	29
京都の歴史Ⅰ	府・榎木ほか	196	74	98	24
京都の文学Ⅰ	府・藤原	99	37	50	12
人文地理学Ⅰ	医・阿部	120	36	24	60
社会学Ⅰ	府・玉井	174	65	87	22
現代の政治	府・依田	99	37	50	12
現代日本と経済	府・熊澤	99	37	50	12
公共哲学	工・小久見	99	50	33	16
心理学	工・大谷	196	98	66	32
現代社会とジェンダー	府・小沢ほか	120	45	60	15
現代教育論	工・塩屋	174	87	58	29
京都学事始—近代京都と三大学—	機構・宗田ほか	99	33	33	33
京の産業技術史	工・山田	99	50	33	16
現代京都論	府・宗田	120	45	60	15
医史学	医・八木	299	90	60	149
リベラルアーツ・ゼミナールⅠa (感覚で探る問題解決の方法)	機構・藤井	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールⅡa (現代社会に学ぶ問う力・書く力)	機構・児玉	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールⅡb (現代社会に学ぶ問う力・書く力)	機構・児玉	30	10	10	10
物理学Ⅰ	府・春山	99	37	50	12
エネルギー科学	工・林	99	50	33	16
化学概論Ⅰ	工・三木定	120	60	40	20
生物学概論Ⅰ	工・遠藤	99	50	33	16
人と自然と数学α	工・大倉	99	50	33	16
生物学的人間学	医・小野ほか	204	61	41	102
環境問題と持続可能な社会	工・高月	174	87	58	29
食と健康の科学	府・東ほか	99	37	50	12
キャンパスヘルス概論	工・荒井	196	98	66	32
京都の自然と森林	府・池田ほか	174	65	87	22

◇夏期集中開講科目の履修定員

リベラルアーツ・ゼミナールⅦ(感性の実践哲学)	機構・桑子	30	10	10	10
発達心理学	医・小川	196	59	39	98
リベラルアーツ・ゼミナールⅣ(現代社会と映画製作)	機構・長坂	30	10	10	10
生命科学講話	府・塚本ほか	設けない			
時間生物学特論 (※3回生以上(修士課程大学院生を含む))	医・八木田	30	9	6	15

平成 27 年度 授業科目の履修定員

後期 授業科目の履修定員

科 目 名	担当教員	科目定員	うち工繊大	うち府大	うち医大
哲学	工・伊藤	174	87	58	29
宗教と文化	医・田中	99	29	20	50
東西文化交流史	工・オーガスティン	174	87	58	29
ラテン語	医・松本	99	29	20	50
西洋文化論	工・山下太	174	87	58	29
日本文学Ⅱ	医・早川	99	29	20	50
文芸創作論	医・藤田	120	36	24	60
京都の歴史Ⅱ	府・小林ほか	196	74	98	24
京都の文学Ⅱ	府・藤原	99	37	50	12
京の意匠	工・並木	99	50	33	16
英語で京都 (※3回生以上)	機構・金澤	30	10	10	10
人文地理学Ⅱ	医・阿部	174	52	35	87
社会学Ⅱ	府・玉井	174	65	87	22
政治学	工・竹本	99	50	33	16
国際政治	府・依田	99	37	50	12
経済学入門	工・人見	174	87	58	29
文化社会学	工・工藤	99	50	33	16
生活と経済	府・小沢	99	37	50	12
現代社会と心	府・石田	196	74	98	24
人権教育	工・杉本	99	50	33	16
リベラルアーツ・ゼミナールⅠb (感覚で探る問題解決の方法)	機構・藤井	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールⅢ (社会科学の学び方)	機構・児玉	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールⅩ (経営哲学) (※2回生以上)	機構・児玉	30	10	10	10
化学概論Ⅱ	工・石川	99	50	33	16
生物学概論Ⅱ	工・遠藤	99	50	33	16
地球の科学	工・酒井	120	60	40	20
宇宙と地球の科学	府・松村	99	37	50	12
人と自然と数学β	工・塚本	120	60	40	20
人と自然と物理学	工・萩原、播磨	99	50	33	16
人類生態学	府・熊倉	99	37	50	12
意外と知らない植物の世界	機構・藤井ほか	51	17	17	17
科学史	工・笠木	99	50	33	16
科学と思想	工・林	99	50	33	16
京都の農林業	府・宮崎ほか	196	74	98	24
リベラルアーツ・ゼミナールⅦ (製品の機能から科学を学ぶ)	機構・石田	30	10	10	10

◇冬期集中開講科目の履修定員

リベラルアーツ・ゼミナールⅥ (現代イスラーム世界の文化と社会)	機構・田村	30	10	10	10
リベラルアーツ・ゼミナールⅤ (アメリカと中国はいま)	機構・脇田	30	10	10	10

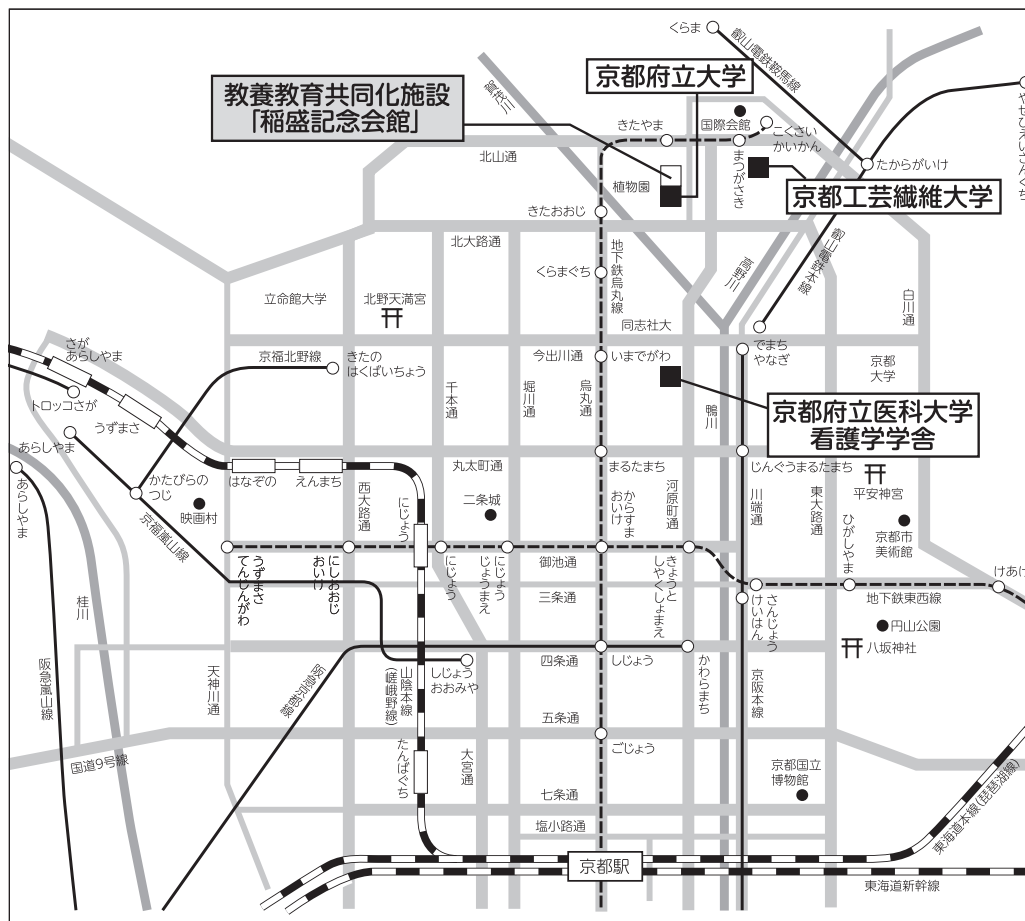
担当教員欄の「工」、「府」、「医」、「機構」は、科目提供大学を示し、それぞれ京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学、京都三大学教養教育研究・推進機構です。

キャンパスガイド

共同化科目開講場所について

共同化科目は、原則として京都府立大学下鴨キャンパス敷地内の**教養教育共同化施設「稲盛記念会館」**で開講されます。

受講者は、次ページ以降に掲載されている地図や交通手段などを参考にして、時間に余裕をもって移動できるよう心掛けて下さい。



平成27年度 共同化科目開講時間割

前 期

提供大学等	機 構	京都工芸繊維大学	京都府立大学	京都府立医科大学
開講場所	共同化施設 (稲盛記念会館)			
曜日・コース				
月 曜	3 12:50～14:20	リベラルアーツ・ゼミナールⅡa (現代社会に学ぶ 問う力・書く力) (児玉英明)	公共哲学(小久見祥恵)	医史学(八木聖弥)
			現代教育論(塩屋葉子)	
			エネルギー科学(林 哲介)	
			生物学概論Ⅰ(遠藤泰久)	
			現代京都論(宗田好史)	
			物理学Ⅰ(春山洋一)	
	4 14:30～16:00	リベラルアーツ・ゼミナールⅠa (感覚で探る問題 解決の方法) (藤井陽奈子)	京都の歴史Ⅰ(櫛木謙周ほか)	日本文学Ⅰ(早川久美子)
			現代の政治(依田 博)	
			京都の文学Ⅰ(藤原英城)	
			社会学Ⅰ(玉井眞理子)	
			食と健康の科学 (東あかねほか)	
			生物学的人間学 (小野勝彦ほか)	
	5 16:10～17:40	京都学事始 —近代京都と三大学— (宗田好史ほか) リベラルアーツ・ゼミナールⅡb (現代社会に学ぶ 問う力・書く力) (児玉英明)	人と自然と数学α(大倉弘之)	人文地理学Ⅰ(阿部美香)
			キャンパスヘルス概論 (荒井宏司)	
			比較宗教学(若見理江)	
			日本史(鬼頭尚義)	
			現代日本と経済(能澤大輔)	
			西洋文学論(山下大吾)	
月 曜	3 12:50～14:20	リベラルアーツ・ゼミナールⅢ (社会科学の学び方) (児玉英明)	心理学(大谷芳夫)	京都の自然と森林 (池田武文ほか)
			京の産業技術史(山田由希代)	
			意外と知らない 植物の世界 (藤井陽奈子、 松谷茂ほか)	
			文化社会学(工藤保則)	
			生物学概論Ⅱ(遠藤泰久)	
			科学史(笠木雅史)	
	4 14:30～16:00	リベラルアーツ・ゼミナールⅠb (感覚で探る問題 解決の方法) (藤井陽奈子)	京都の歴史Ⅱ(小林啓治ほか)	文芸創作論(藤田佳信)
			京の意匠(並木誠士)	
			国際政治(依田 博)	
			京都の文学Ⅱ(藤原英城)	
			社会学Ⅱ(玉井眞理子)	
			現代社会と心(石田正浩)	
月 曜	5 16:10～17:40	英語で京都 (※3回生以上) (金澤 哲) リベラルアーツ・ゼミナールⅢ (経営哲学) (※2回生以上) (児玉英明)	宇宙と地球の科学(松村一男)	人文地理学Ⅱ(阿部美香)
			生活と経済(小沢修司)	
			人類生態学(熊倉博雄)	
			京都の農林業(宮崎 猛ほか)	
			科学と思想(林 哲介)	
			政治学(竹本知行)	
月 曜	3 12:50～14:20	リベラルアーツ・ゼミナールⅣ (現代社会と映画製作)(長坂 勉) (8月27～28日、9月3～4日 各3・4コース) 生命科学講話(塚本康浩ほか) (8月24日～26日 各1～5コース) 時間生物学特論(※3回生以上(修士課程大学院生を含む。))(八木田和弘) (9月3日～4日 各1～4コース)	哲学(伊藤 徹)	文芸創作論(藤田佳信)
			東西文化交流史 (オーガスティン・ジョナサン)	
			京の意匠(並木誠士)	
			文化社会学(工藤保則)	
			生物学概論Ⅱ(遠藤泰久)	
			科学史(笠木雅史)	
月 曜	4 14:30～16:00	英語で京都 (※3回生以上) (金澤 哲) リベラルアーツ・ゼミナールⅢ (経営哲学) (※2回生以上) (児玉英明)	人と自然と数学β(塚本千秋)	宗教と文化(田中純子)
			人と自然と物理学 (萩原 亮、播磨 弘)	
			宇宙と地球の科学(松村一男)	
			生活と経済(小沢修司)	
			人類生態学(熊倉博雄)	
			京都の農林業(宮崎 猛ほか)	
月 曜	5 16:10～17:40	英語で京都 (※3回生以上) (金澤 哲) リベラルアーツ・ゼミナールⅢ (経営哲学) (※2回生以上) (児玉英明)	政治学(竹本知行)	宗教と文化(田中純子)
			経済学入門(人見光太郎)	
			人権教育(杉本弘幸)	
			化学概論Ⅱ(石川洋一)	
			地球の科学(酒井 敏)	
			科学と思想(林 哲介)	

後 期

提供大学等	機 構	京都工芸繊維大学	京都府立大学	京都府立医科大学
開講場所	共同化施設 (稲盛記念会館)			
曜日・コース				
月 曜	3 12:50～14:20	リベラルアーツ・ゼミナールⅢ (社会科学の学び方) (児玉英明)	公共哲学(小久見祥恵)	医史学(八木聖弥)
			現代教育論(塩屋葉子)	
			エネルギー科学(林 哲介)	
			生物学概論Ⅰ(遠藤泰久)	
			現代京都論(宗田好史)	
			物理学Ⅰ(春山洋一)	
	4 14:30～16:00	リベラルアーツ・ゼミナールⅠa (感覚で探る問題 解決の方法) (藤井陽奈子)	京都の歴史Ⅰ(櫛木謙周ほか)	日本文学Ⅰ(早川久美子)
			現代の政治(依田 博)	
			京都の文学Ⅰ(藤原英城)	
			社会学Ⅰ(玉井眞理子)	
			食と健康の科学 (東あかねほか)	
			生物学的人間学 (小野勝彦ほか)	
月 曜	5 16:10～17:40	京都学事始 —近代京都と三大学— (宗田好史ほか) リベラルアーツ・ゼミナールⅡb (現代社会に学ぶ 問う力・書く力) (児玉英明)	人と自然と数学α(大倉弘之)	人文地理学Ⅰ(阿部美香)
			キャンパスヘルス概論 (荒井宏司)	
			比較宗教学(若見理江)	
			日本史(鬼頭尚義)	
			現代日本と経済(能澤大輔)	
			西洋文学論(山下大吾)	
月 曜	3 12:50～14:20	リベラルアーツ・ゼミナールⅢ (社会科学の学び方) (児玉英明)	心理学(大谷芳夫)	京都の自然と森林 (池田武文ほか)
			京の産業技術史(山田由希代)	
			意外と知らない 植物の世界 (藤井陽奈子、 松谷茂ほか)	
			文化社会学(工藤保則)	
			生物学概論Ⅱ(遠藤泰久)	
			科学史(笠木雅史)	
月 曜	4 14:30～16:00	リベラルアーツ・ゼミナールⅠb (感覚で探る問題 解決の方法) (藤井陽奈子)	京都の歴史Ⅱ(小林啓治ほか)	文芸創作論(藤田佳信)
			京の意匠(並木誠士)	
			国際政治(依田 博)	
			京都の文学Ⅱ(藤原英城)	
			社会学Ⅱ(玉井眞理子)	
			現代社会と心(石田正浩)	
月 曜	5 16:10～17:40	英語で京都 (※3回生以上) (金澤 哲) リベラルアーツ・ゼミナールⅢ (経営哲学) (※2回生以上) (児玉英明)	宇宙と地球の科学(松村一男)	人文地理学Ⅱ(阿部美香)
			生活と経済(小沢修司)	
			人類生態学(熊倉博雄)	
			京都の農林業(宮崎 猛ほか)	
			科学と思想(林 哲介)	
			政治学(竹本知行)	

集中開講

夏 期	リベラルアーツ・ゼミナールⅦ(感性の実践哲学)(桑子敏雄) (9月1日～2日 各2～5コース)	機構
	発達心理学(小川恭子) (9月7日～9日 各1～5コース)	医大
	リベラルアーツ・ゼミナールⅣ(現代社会と映画製作)(長坂 勉) (8月27～28日、9月3～4日 各3・4コース)	機構
	生命科学講話(塚本康浩ほか) (8月24日～26日 各1～5コース)	府大
冬 期	時間生物学特論(※3回生以上(修士課程大学院生を含む。))(八木田和弘) (9月3日～4日 各1～4コース)	医大
	リベラルアーツ・ゼミナールⅥ(現代イスラム世界の文化と社会)(田村うらら)	機構
	(12月27日 2～5コース、28日 1～4コース)	
	リベラルアーツ・ゼミナールⅤ(アメリカと中国はいま)(脇田哲志)	機構
	(12月25日 1～4コース、26日 2～5コース)	

京都三大学教養教育研究・推進機構 授業アンケート

京都三大学教養教育研究・推進機構「授業アンケート（2015）」

このアンケートは、京都三大学教養教育共同化科目を受講する皆さんの意見・感想を今後の科目のあり方や実施方法の改善に活かすために行うもので、成績評価には一切関係しませんので、率直に教えてください。なお、集計結果の活用の際には、個人情報保護の観点から細心の注意を払います。

科目名	
-----	--

記入上の注意

○マーク例 良いマーク ● 悪いマーク ○ ● ○
記入に際しては鉛筆かシャープペンシルを用い、間違った場合は消しゴムできれいに消してください。

I あなたの所属は、次のうちのどれですか。

京都府立大学	① 文学部	② 公共政策学部	③ 生命環境学部	
京都工芸繊維大学	④ 生命物質科学域	⑤ 設計工学域	⑥ 造形科学域	⑦ 先端科学技術課程
京都府立医科大学	⑧ 医学科	⑨ 看護学科		
	⑩ その他 ()			

II 京都府立大学生は、所属学科もお答えください。

文学部	① 日本・中国文学科	② 欧米言語文化学科	③ 歴史学科
公共政策学部	④ 公共政策学科	⑤ 福祉社会学科	
生命環境学部	⑥ 生命分子化学科	⑦ 農学生命科学科	⑧ 食保健学科
	⑨ 環境・情報科学科	⑩ 環境デザイン学科	⑪ 森林科学科

III 学年をお答えください。

① 1年生	② 2年生	③ 3年生	④ 4年生	⑤ その他
-------	-------	-------	-------	-------

IV この科目の出席状況をお答えください。

④ ほぼ全て出席した（12回以上）	③ かなり出席した（9～11回）	② あまり出席しなかった（5～8回）
① ほとんど出席しなかった（4回以下）		

V この科目について、1回あたり平均してどのくらいの授業時間外学習（予習・復習）をしていますか。

④ 120分以上	③ 60分以上	② 30分以上	① 30分未満
----------	---------	---------	---------

VI この科目を受講してどのような感想を持ちましたか。

次の各項目に5段階で答えてください。

	5 強く 思う	4 やや 思う	3 どちら もない	2 あまり ない	1 全く ない
(1) この科目や関連する分野特有の視点や手法を学んだ	⑤	④	③	②	①
(2) この科目や関連する分野の基礎的知識を修得した	⑤	④	③	②	①
(3) 世界の人々の多様な生き方に触れた	⑤	④	③	②	①
(4) 自らの生き方を考え、高い倫理観を培った	⑤	④	③	②	①
(5) 現代社会が抱える問題への関心が高まった	⑤	④	③	②	①
(6) 文献・資料などを検索し、読解する力が高まった	⑤	④	③	②	①
(7) レポートを書く力が高まった	⑤	④	③	②	①
(8) 論理的に思考する力が高まった	⑤	④	③	②	①
(9) 受講生や教員との議論を経験できた	⑤	④	③	②	①
(10) 自大学では学べない領域を学んだという実感があった	⑤	④	③	②	①
(11) 教員との双方向のやりとりがあり、授業に参加しているという実感があった	⑤	④	③	②	①
(12) 課題や小テストなどのため、講義時間外でこの科目に充てる時間が多かった	⑤	④	③	②	①
(13) 成績評価の方法や基準が明らかにされていた	⑤	④	③	②	①
(14) 授業内容に触発されて、関連分野をより深く学びたいと思った	⑤	④	③	②	①

自由記述欄（付け加えたいこと、あるいはこのアンケートに関する意見があれば、お書きください）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

京都三大学教養教育研究・推進機構 1 年次生アンケート

京都三大学教養教育研究・推進機構（2015 年度）

三大学教養教育研究・推進機構 1 年次生アンケート

（問題番号の後の＊印は必須項目を表す。大学間で統一する。）

このアンケートは三大学教養教育研究・推進機構の取り組みについての意見を集約するために授業アンケートとは別に行うものです。ご協力をお願いします。

問1. 三大学教養教育共同化科目（以下、共同化科目）の履修状況について教えてください。

問1-1. 履修登録の初めに第1希望として提出した科目数は何科目ですか。前学期・後学期別に教えてください。

問1-1-1＊. 前学期（ただし集中講義を除く）[0, 1, 2, 3]

問1-1-2＊. 後学期（ただし集中講義を除く）[0, 1, 2, 3]

問1-2. 実際に履修登録した科目数は何科目ですか。前学期・後学期別に教えてください。

問1-2-1＊. 前学期（ただし集中講義を除く）[0, 1, 2, 3]

問1-2-2＊. 後学期（ただし集中講義を除く）[0, 1, 2, 3]

問1-3. 可否にかかわらず最終評価（試験やレポートなど）を受けた科目数は何科目ですか。前学期・後学期別に教えてください。

問1-3-1＊. 前学期（ただし集中講義を除く）[0, 1, 2, 3]

問1-3-2＊. 後学期（ただし集中講義を除く）[0, 1, 2, 3]

問2＊. 履修登録時の抽選についてどう思いますか。[3. 現状でよい 2. どちらともいえない 1. できればなくしてほしい]

問3. 前学期・後学期いずれかに共同化科目を履修登録した方にお聞きます。共同化科目の履修登録科目を選ぶとき、以下の問3-1～問3-5に挙げられているものは、それぞれどの程度役に立ちましたか。次の5段階で教えてください。（前学期・後学期いずれにも共同化科目を履修登録しなかった方は問6にお進みください。）

（5：とても役に立った 4：役に立った 3：少し役に立った 2：役に立たなかった 1：利用しなかった）

問3-1. 「京都三大学教養教育共同化科目受講案内」（緑の冊子） [5, 4, 3, 2, 1]

問3-2 問3-1で3～5と答えた人は、さらに問3-2-1～問3-2-4についても教えてください。それ以外の方は問3-3まで進んでください。

問3-2-1. 科目の概要 [5, 4, 3, 2, 1]

問3-2-2. 学生へのメッセージ [5, 4, 3, 2, 1]

問3-2-3. 授業目的区分 [5, 4, 3, 2, 1]

問3-2-4. 上記問3-2-1～問3-2-3以外で役に立った部分があれば書いてください。[]

問3-3 シラバス [5, 4, 3, 2, 1]

問3-4 京都三大学教養教育研究・推進機構の履修相談 [5, 4, 3, 2, 1]

問3-5 先輩や友人などの他の学生からのアドバイス [5, 4, 3, 2, 1]

問3-6 その他、役に立ったものがあれば書いてください。[]

問4. 履修登録時に第1希望の科目を選んだ主な理由を、次の中から3つまで選んでください。

[1. 興味があったから 2. 必要だから 3. 学びが深い科目と思ったから 4. 単位が取りやすそうだったから
5. 好きな分野だから 6. 知らない分野だから 7. 自大学提供科目だから 8. 他大学提供科目だから
9. その他 []]

問5. 今年度履修した共同化科目の満足度を、科目ごとに5段階で表すとき、満足度の最高値と最低値を教えてください。

問5-1. 満足度の最高値 [5, 4, 3, 2, 1]

問5-2. 満足度の最低値 [5, 4, 3, 2, 1]

京都三大学教養教育研究・推進機構（2015年度）

問6＊．共同化科目の数や構成・内容についてはどう思いますか。

- [4. 現状でよい 3. 科目の構成や内容を再検討してほしい 2. 科目数自体を増やして選択の幅を広げてほしい
1. その他 []]

問7＊．来年度、共同化科目を履修しようと思いますか。

- [5. ぜひ履修したい 4. 履修したい 3. 履修するかもしれない 2. わからない 1. 履修しない]

問8. 前学期・後学期いずれかに共同化科目を履修登録した方にお聞きます。共同化科目の履修を通じて、他大学の学生と話す等の交流の機会がどの程度あったかを、学期ごとに答えてください。（のべ数で、履修日かどうかとも問いません）（前学期・後学期いずれにも共同化科目を履修登録しなかった方は問10にお進みください。）

問8-1. 前学期 [4. 7回程度以上 3. 3～6回程度 2. 1～2回程度 1. なかった]

問8-2. 後学期 [4. 7回程度以上 3. 3～6回程度 2. 1～2回程度 1. なかった]

問9. 共同化科目受講のために教養教育共同化施設「稲盛記念会館」を利用した方にお聞きます。

問9-1. 建物や設備に対する満足度を5段階で答えてください。

- [5. とても満足 4. やや満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. とても不満]

問9-2. 共同化科目受講日に自習室を利用しますか。

- [5. ほぼ毎週 4. 2週に1回程度 3. これまで数回程度 2. 利用したことはない 1. 自習室を知らなかった]

問9-3. （工織大のみ）共同化科目履修のために京都工芸繊維大学から「稲盛記念会館」へ移動している方のみ答えてください。それ以外の方は、問10に進んでください。

問9-3-1. 通常の交通手段は何ですか。 [1. 自転車 2. 徒歩 3. バスまたは地下鉄 4. その他]

問9-3-2. 通常、共同化科目の履修後工芸繊維大学へ向かいますか。 [1. はい 2. いいえ]

問9-3-3. 2つのキャンパスで受講することについて、感想や改善点を自由に書いてください。

問10. 自由記述欄（その他、意見や要望があれば書いてください）

以上です。ご協力ありがとうございました。

京都工芸繊維大学の科目ナンバリングの導入に向けた進捗状況

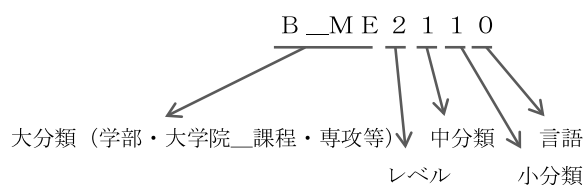
京都工芸繊維大学の科目ナンバリングの導入に向けた進捗状況

文部科学省は、日本の教育制度の国際通用性を高める観点から、科目ナンバリングの導入を全国の大学に対して数年前から政策誘導を行ってきました。平成24年8月の中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」においては、教育課程の体系化を図る方策として、科目間の関連や科目内容の難易を表現する番号をつける（ナンバリング）など、教育課程の構造を分かりやすく明示する工夫が必要である、と謳われています。

これらに対して、京都工芸繊維大学では、科目ナンバリング制度の導入について平成26年度から検討を開始しました。

本学が導入する科目ナンバリングシステムの概要は次のとおりです。

（1）ナンバリングの形式



本学のナンバリングコードは、「学部、大学院の別と課程・専攻等」を示す英字（上記の「B _ME」の部分）と「レベル、学問分野、使用言語」を示す4桁の数字（上記の「2 1 1 0」の部分）で構成します。

これらのコードのうち、英字部分の“_（アンダーバー）”以前の最初1文字を「学部・大学院のコード」、アンダーバー以降を「課程・専攻等コード」、これら2つを合わせたものが「大分類コード」となります。

また、4桁の数字は1桁目からそれぞれ、授業のレベルを示す「レベルコード」、学問の分類を示す「中分類コード」と「小分類コード」、そして授業で使用する言語を示す「言語コード」としています。

（2）ナンバリングコードの意味

① 大分類コード

大分類コードは、カリキュラムの実施主体／区分を示すコードになります。具体的には学部・大学院等の実施主体およびカリキュラム編成上の区分（課程、専攻、または学問上の区分）になります。

コードは英字で、最初の1文字は当該科目を開講する学部・大学院等を示すものとなり、次のとおり区分します。

・学部…「B」 ・博士前期課程…「M」 ・博士後期課程…「D」

その後に“_（アンダーバー）”を付けて、課程・専攻・コース等または学問上の区分を設定します。

例 人間教養科目・・・・・・・・・・L I（Liberal Arts）

② レベルコード

レベルコードは、当該科目の授業レベルを示すコードで、専門性の程度や他の科目との順序性、受講に必要な前提知識の有無等を参考にして付番するものとします。

- 1000番台：全学共通科目（語学上級や高年次対象科目を除く基礎的な内容の科目）
学部専門導入科目（新入生対象のゼミ・セミナーなど）
- 2000番台：全学共通科目（語学上級、発展的な内容の高年次対象科目）
学部専門基礎科目および課程専門科目（基礎的な内容の科目）
- 3000番台：学部専門基礎科目および課程専門科目（発展的な内容の科目）
- 4000番台：学部専門科目（卒業研究関連科目、下履修不可の4年次専門科目、
大学院と同時開講している科目）
-
- 5000番台：大学院（博士前期課程）の専攻共通科目および専門科目の内、
学部生が履修可能なもの（基礎的な内容の科目）
- 6000番台：大学院（博士前期課程）の専攻共通科目および専門科目の内、
学部生が履修不可のもの（発展的な内容の科目、研究指導科目）
-
- 7000番台：大学院（博士後期課程）専攻共通科目、専門科目（研究指導科目を含む）
-
- 9000番台：その他（教職専門科目、学芸員科目、レベル分けができない科目）

授業科目の配当年次とレベルは一致するものではありません。（4回生対象科目であっても、学部専門科目は3000番台であったり、全学共通科目であれば2000番台となります。）

また、海外の多くの大学と同様の授業レベルの表記（1000～4000番台が学部、5000～7000番台が大学院）としているため、海外から来る留学生または本学から海外の大学に留学する学生にとっても、授業のレベルを比較しやすいものとなっているなど、他の大学との共通性も考慮したものとなっています。

③ 中分類・小分類コード

中分類・小分類コードは、当該科目の学問分野を示すコードとなり、これは課程・専攻など授業の実施主体である大区分毎に付与する必要があります。

各教育課程（大区分毎）の中で、学問分野を中分類・小分類（それぞれ0から9までの数字で表示）で設定し、当該科目が体系化したカリキュラムの中で、どのような位置づけにあるのかを示します。小分類は授業科目と一致するものではなく、同じ分野に位置づけられる科目は、同じ中分類コード、同じ小分類コードとなります。

④ 言語コード

本学が、スーパーグローバル大学創成支援事業に採択されたこともあり、その国際化に向けた取り組みの一環として、外国語による授業科目がナンバリングコードから判別できるよう、当該科目で使用する言語を示す「言語コード」を設定しています。

因みに、大学院に設置されている国際科学技術コースに対応した科目の言語コードは、1の「英語で行う授業」もしくは、2の「受講者に応じて日本語または英語で行う授業」となります。

- 0：日本語で行う授業
- 1：英語で行う授業
- 2：受講者に応じて日本語または英語で行う授業（状況に応じて使用言語を変更する）
- 3：英語以外の外国語で行う授業
- 4：その他（例えば受講者に応じて日本語またはドイツ語で行う授業など）

京都工芸繊維大学
科目ナンバリング分類表（学部の人間教養科目および大学院の専攻共通科目）

大分類

人間教養科目

学士課程 4年

3

×

中分類名称 コード	小分類名称 コード	1000	2000	3000	
1. KIT教養科目	1. KIT入門	KIT入門【0】	KITスタンダード【0】		
		KITキャリア教育【0】	学習・キャリア戦略論【0】		
	2. 科学と芸術	科学と芸術の出会いⅠ【0】		科学と芸術の出会いⅡ【0】	
				科学と芸術の出会いⅢ【0】	
	3. 科学技術と環境	地球環境論【0】	環境史【0】	環境マネジメント【0】	
	4. 科学技術と倫理		情報セキュリティと情報倫理【0】		
			生命倫理【0】		
	5. ものづくりと技術戦略		テクノロジー論【0】		
		ものづくりと生命物質科学【0】	ものづくりと生命物質科学【0】	産学連携ものづくり実践【0】	産業関係論【0】
		ものづくりと設計工学【0】	ものづくりと設計工学【0】		
		ものづくりと造形科学【0】	ものづくりと造形科学【0】		
		実践ユニバーサルデザイン【0】	ものづくり加工実習【0】		
	6. 京の伝統文化と先端	京のサスティナブルデザイン【0】	京の意匠【0】	京の伝統工芸一技と美【0】	京のまち【0】
		文化財学【0】	京の知識 伝統産業の先進的ものづくり【0】	京の伝統工芸一知と美【0】	英語で京都【0】
		京の文化行政【0】	宗教と文化【0】		
		伝統産業工学【0】			
		京の産業技術史【0】	京都の農林業【0】		
		京の生活文化史【0】	京の生活文化史【0】		
		京都の文学Ⅰ【0】	京都の文学Ⅱ【0】		
		京都の歴史Ⅰ【0】	京都の歴史Ⅱ【0】		
		現代京都論【0】			
		京都の自然と森林【0】			
		京都学専攻一辺代京都と三大学【0】			
		7. Tech Leader Seminar	リーダーシップ基礎Ⅰ【0】	リーダーシップ基礎Ⅱ【0】	
	2. 基本教養科目	1. 社会科学の基礎	人文地理学Ⅰ【0】	人文地理学Ⅱ【0】	
社会学Ⅰ【0】			社会学Ⅱ【0】		
法学【0】			政治学【0】		
経済学【0】			国際政治【0】		
			経済学入門【0】		
2. 人間と社会			文化社会学【0】		
		公共哲学【0】	憲法【0】		
		心理学【0】	生活と経済【0】		
		現代教育論【0】	現代社会と心【0】		
		現代の政治【0】			
3. 人間と歴史		現代日本と経済【0】			
		現代社会とジェンダー【0】			
		歴史学【0】			
		発達心理学【0】			
		日本史【0】	東西文化交流史【0】		
4. 文化・芸術		アジアの歴史と文化【0】	歴史学【0】	舞台芸術論【0】	
		倫理学【0】	哲学【0】		
		美と芸術【0】	宗教と文化【0】		
		比較宗教学【0】	西洋文化論【0】		
		西洋文学論【0】	ラテン語【0】		
5. 自然科学の基礎		日本近現代文学【0】	文芸創作論【0】		
		日本文学Ⅰ【0】	日本文学Ⅱ【0】		
		物理学Ⅰ【0】	化学概論Ⅱ【0】		
		エネルギー科学【0】	生物学概論Ⅱ【0】		
		化学概論Ⅰ【0】	宇宙と地球の科学【0】		
6. 人間と自然・科学		生物学概論Ⅰ【0】	地球の科学【0】		
		生命科学講話【0】			
		人と自然と数学α【0】	人と自然と数学β【0】	時間生物学特論【0】	
		環境問題と持続可能な社会【0】	人と自然と物理学【0】		
		食と健康の科学【0】	科学と思想【0】		
7. リベラルアーツ・ゼミナール		生物学的人間学【0】	科学史【0】		
			人類生態学【0】		
			意外と知らない植物の世界【0】		
		リベラルアーツ・ゼミナールⅠ【0】	リベラルアーツ・ゼミナールⅠ【0】		
		リベラルアーツ・ゼミナールⅡ【0】	リベラルアーツ・ゼミナールⅢ【0】		
3. 体の科学		リベラルアーツ・ゼミナールⅣ【0】	リベラルアーツ・ゼミナールⅤ【0】		
		リベラルアーツ・ゼミナールⅥ【0】	リベラルアーツ・ゼミナールⅦ【0】		
		リベラルアーツ・ゼミナールⅧ【0】	リベラルアーツ・ゼミナールⅧ【0】		
		リベラルアーツ・ゼミナールⅨ【0】	リベラルアーツ・ゼミナールⅨ【0】		
		キャンパスヘルス概論【0】	生体行動科学【0】	健康スポーツ科学【0】	(生体機能論)
	スポーツ科学演習Ⅰ【0】	スポーツ科学演習Ⅱ【0】	生涯スポーツ演習【0】	生涯スポーツ演習【0】	(スポーツバイオメカニクス)

留意事項1. 修士課程の専攻共通科目である「高等教育セミナー」については、H27年度シラバスにおいて人文・社会・自然分野に分類できるもののみ掲載した。(掲載していないものは、高等教育セミナー1, 2, 6, 7, 8, 5科目。)

2. 下線を付した科目については、前後学期に同一の科目を開講しているもの。

3. 括弧書きの科目は他課程専門科目あるいは専門基礎科目であり、それぞれAB(応用生物学課程専門科目の大分類コード)またはSB(専門基礎科目の大分類コード)から始まるナンバリングのいずれかが適用される。

※【 】中の数字は、言語コードを示します。(大学院に設置されている国際科学技術コースに対応した科目の言語コードは、1の「英語で行う授業」もしくは、2の「受講者に応じて日本語または英語で行う授業」となります。)

0: 日本語で行う授業

1: 英語で行う授業

2: 受講者に応じて日本語または英語で行う授業(状況に応じて使用言語を変更する)

3: 英語以外の外国語で行う授業

4: その他(例えば受講者に応じて日本語またはドイツ語で行う授業など)□

39

編 集：
発 行：



京都三大学
教養教育研究・推進機構
Institute of Liberal Arts and Sciences

所在地：〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1番5
教養教育共同化施設「稲盛記念会館」内

T E L：075-703-4925

F A X：075-703-4979

H P：<http://kyoto3univ.jp/>

発行日：平成28年3月

デザイン：株式会社 谷印刷所